



東日本大震災をきっかけに日本中に広がったわかちあうという気持ちについて、これまで一緒に活動してきた仲間たちと話し合ってみました。

なぜ毛布は配られたのか？

——特集を進めるうえで核となったのが「足りない毛布」の話。ここから始めたいのですが…。

その「足りない毛布」というのはどんな話なんですか？

東日本大震災の時、ある避難所で毛布があったにもかかわらず、平等に配れないという理由で配られず、凍死者が出たという話があった…。

それは私がラジオで聞いた話なんですけど、110人いるところに100枚しかなかったというよう…。で、その話を聞いたときに本当に残念だと思っただのが、公平性が有効に働かなかつたというか、本来は人命が最優先となるべき時に、その判断を誤ってしまった。「公平、みんな同じ」と言うことは、多くの見えにくいリスクを伴っているのでは？と感じました。

たぶん、公平に分けられないものは配ってはいけないという判断だったのだろうけど、普通に考えれば配るべきこと。足りなければ2人で1枚を使う人もあったろうし、子どもやお年寄りには優先的に渡されただろうし…。

黙って判断しないで、言えば良かったんですよ。「人数分足りませんが、どうしましょう？」って。(頷く)

(誤解を恐れずに言うならば) 海外のメディアの震災関連の報道の中で、日本人はこんな時でも並んで配給を待ったり、節度を保った冷静な行動が素晴らしいと言ったコメントがあったけど、違う気がするんですよ。非常時なんだから「こんなことを言ったら…」と臆せず、当事者でしかわからな



4号 H11.3

地域でどんな活動していますか  
地域で楽しむ達人たち



3号 H10.11

座談会／子育てから学ぶことは何ですか  
アンケート／地域で子育てしていますか



2号 H10.1

夫婦のパートナーシップ  
パートナーとのいい関係



創刊号 H9.1

市長と語る90分  
あなたの暮らしを  
ジェンダー・チェック

『ひらく』のあゆみ

創刊は平成9年。特集のタイトルを読むと、その時代が見えてきます。

い要望を、声を大にして言うべきだったんじゃないかと。

あまり報道されませんが、我慢して病気が悪化したり、震災後に亡くなった方も多くいたはず。それこそ悲劇ですよ。



——先日報告された福島原発事故の中間報告（※注）でも、同じことが指摘され

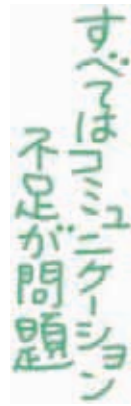
てましたよね。「官邸内のコミュニケーション不足や住民への不適切な避難指示など、政府による情報の集約・伝達・公開に不備があった」と。

畑村さんは確か「失敗学」の提唱者として知られた方ですよ？

だから東電の報告と較べて、すごく良かった。「想定外」という言葉に終始した東電に対して、「発生確率が低い事象であっても、『あり得ることは起こる』と考えるべきだ」と。

そして、その中で指摘されたのがコミュニケーション不足。事故発生時、首相ほか政府首脳は官邸5階に、各省庁幹部は地下の危機管理センターに集まっていた。当然連絡が不十分で、その結果、放射性物質の拡散予

測システム「SPEEDI（スピーディ）」の存在が把握されず、住民避難に活用されなかった、と。



結局、今の社会は話さなくても済んでしまうじゃないですか。何か買うにしてもレ



ジに商品を持っていつてお金を払えば手に入るし、近隣の人とはもちろん、家族間でも会話が減っている。

昔は八百屋さんで野菜を買うときでも料理方法を教わったり、日々の生活の中にコミュニケーションがありましたよね。

マンションなどの集合住宅はもちろん、町も再開発によってどんどん新しい住宅が建てられ、他所から人が入ってくる。朝会社に行き、帰りも遅かったりすると、なかなか密接なコミュニケーションが生まれにくい状況がありますよね。

何か殺伐とした社会になってしまったというか…。いまは道でぶつかりそうになって避けても何も言いません

んしね。

逆ににらまれたり、ね。（笑）

子ども達は「知らない人とは口をきいてはいけません」と言われて育っているし、忙しい両親にとっては子どもが他人と関わらない方が安心だし、その方が楽なんだと思います。

でも、この間の震災のように親が自宅に帰れないことだってあるし、地域コミュニティというか日々のコミュニケーションが大事なのでは？「足りない毛布」でいうならば、奪い合うのではなく、「わかちあう」ことができる社会でありたいということか…。

今、私が読んでいる本（※注）の中でも、「シェアすることで人々の絆が生まれ、コミュニティの再生が図れる」と。つまり、モノを分け合う、共有するということだけでなく、精神的なシェアというか、人との関わりによって、温かで豊かなコミュニティが築けるんじゃないかと思いませんね。

同じ社会に生きている限り、「関係が無い」ことは無



5号 H11.10

男女共同参画  
社会基本法って何？  
小平の市議会議員  
28人に聞きました



6号 H12.3

子どもたちが答えた  
男女平等意識アンケート  
男たちの座談会



7号 H12.10

サークルしよう  
座談会／自分「らしさ」の  
謎を解く！



8号 H13.3

結婚てなあに？



9号 H13.10

きて、みて、あそんで  
OH! サプライズフェスタ





いんですよね。  
先日行われた暉峻  
淑子さんの講演会  
(※注3)でも「みんなが幸福でなければ、幸せではない。個人であるとしても社会人としての意識を持つべき」だと。

また、「職場でもいまは正規職員、非正規職員、派遣職員、アルバイトなど、立場がバラバラ。互いに一言も口をきかず一日が過ごせるけれども、つながりを持つことは財産」だとも。

私は、広島電鉄の話(※注4)が印象的でしたね。契約社員を全て正規雇用にし、そのことを賃金が下がる正社員も賛成したという…。

正しい「わかちあい」の好例と言えますね。



—では、コミュニケーション不足はどうしたら解消すると思いますか？

またまた暉峻さんの話で申し訳ないのですが、「ドイツで授業をしていると、たいいてい学生から質問攻めに合う」と。また、この間読んだ上野千鶴子さんの本(※注5)では、全く質問をしない“優等生な東大生のことを嘆いている。

授業は講義を受ける場ではなく、意見を交換するコミュニケーションの場だという意識の違い？

日本人はシャイだと言われているけれど、子どもの頃からなるべく自分の意見は言わない、人と違うことをしない、と教育されているように思えるんですね。それは社会の中で生きる知恵だったのかもしれないけれど、結果、人とのコミュニケーションが下手な大人になってしまった。

以前、英会話を習ったことがあって、その時に感じたのは褒め言葉の多さでした。ちょっとしたことでも、wonderful や fantastic “You are

good student!”など、多彩な表現で褒めてくれる。日本人には無い部分だなあ、と。



全く逆ですよ。個性的事であること、個性を否定する日本の違いというか…。

よく「自尊心」ということが言われますが、マイナスイ面を指摘される日本では「自尊心」は育ちにくいですよ。

先ほどの避難所の人達だって、自分たちが悪いわけではないのに遠慮してしまう。いまの就職難だって学生が悪い訳じゃないのに、就職できなかったのは頑張らなかった自分が悪いと考えている。…それでは、幸せにはなれないですよ。

子どものうちから褒めて褒めて、「あなたのここが素晴らしい！」と個性を伸ばすような教育が各家庭で行われれば、自分の意見を言える子に育ち、日本も変わってくるんじゃないのかなあ。



14号 H16.3

知ろう！考えよう！  
年金のこと  
あなたならどう思う？  
夫婦別姓



13号 H15.10

暮らしの中の  
♪なんでだろう♪  
暮らしを豊かにする働き方



12号 H15.3

NPOしよう  
NGO活動でチェチェン  
に光をあてる



11号 H14.10

男たちの家事  
子育て・介護  
たかが名簿、されど名簿



10号 H14.3

小平の子育て支援事情  
アフガニスタンの現在

# 男女共同参画も 大事なことは同じ

——これまで社会的な問題として話し合ってきましたが、「コミュニケーションが大事」という点は、男女共同参画を推進する際も同じだと思いますが…。

お互いに何でも話すことができ、たとえ違う考えだったとしてもお互いの意思を尊重するという点は、男女共同参画社会をはじめ、格差社会など現代社会が抱える問題を考えるうえで、重要なキーワードではないのでしょうか？

広報誌『ひらく』が創刊された15年前は、ジェンダーとか男女差別の問題などが中心でしたが、今は男も女も辛いというか…(笑)、別のステージに入ってきた気がするんですよ。

男女間だけでなく、広く人間同士のコミュニケーションを考える必要があつて、たとえば社会的に弱者というか、そういう人たちの声にも耳を



澄ます、居場所がちゃんとある社会が理想じゃないかと思えます。



そのためには、お互いに話してみることが大事ですね。

だって、最小単位である夫婦間でさえも、話さなければわからないことが沢山あるのですから。

…ということは、男女共同参画を推進することが、コミュニケーション不足をも解消し、豊かなコミュニケーションをつくる？

そうそう、夫婦間の問題が解決できるなら、社会が抱える問題も解決できる！

それには、やはり暉峻さんが言っていた「言わなきゃダメ！」ってことですよね。

本当にその通り！

ならば、今年はそれをスローガンに活動を進めて行きましようか。(笑)

〈参加者〉

- 馬場悦子、鈴木さよ子、北川紘二、
- 谷原裕子、笹尾かをる、相京香代子、
- 佐野里美、笹 和紀、坂岸真子(順不同)

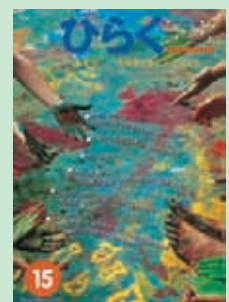
※注1 政府の東京電力福島第1原発事故調査・検証委員会の委員長・畑村洋太郎氏(東大名誉教授)が昨年12月26日に発表した中間報告。全507ページからなる中間報告のうち、政府や東電の問題に切り込んだ「第7章」の部分は、作家で日航ジャンボ機墜落事故の検証などを手掛けた柳田邦男氏と共に書き起こした。

※注2 マーク・ボイル著『ぼくはお金を使わずに生きることにした』。詳しくは、7ページの『ひらく』の書棚」を参照。

※注3 昨年12月17日に小平市中央公民館で、「2011今年日本になにがあったか いま言いたいこと 伝えたいこと」と題されて開催された講演会。内容はいまの日本の課題やドイツで教鞭をとっていた時のエピソードなど多岐にわたり、平成21年に契約社員全員を正社員化した広島電鉄の話は、やればできる。実例として紹介された。

※注4 河西宏祐著『路面電車を守った労働組合』。詳しくは、7ページの『ひらく』の書棚」を参照。

※注5 上野千鶴子著『サヨナラ、学校社会』。男女共同参画センターにて閲覧・貸出が可能。



15号 H16.10

座談会/市内の大学生が考える男女共同参画社会生きていくための家事力



16号 H17.2

こう読みます! ひらく版男女共同参画社会基本法 男の家事



17号 H17.10

年表で見るジェンダー 日本国憲法第24条の存在



18号 H18.2

ぼくたちがこの仕事を 選んだ理由 絵本の中のオオカミたち



19号 H18.10

座談会/仕事も子育てもしたい!! ご存知ですか 小平市の取り組み



# 『私流働き方、生き方発見』

〜ひとりでがんばりすぎていませんか?〜



講師 竹信 三恵子さん  
(和光大学教授)

これからの働き方、生き方を考える前に、今、私たちはどんな社会にいるのか? 意外に知らない現実を竹信三恵子さんは説き明かされました。

働く女性が増えた、と言っても半数以上がパートや派遣などの非正規労働者。若い世代では男性でも非正規が増えています。不況になって企業が人件費削減のために正社員に代わって賃金が低くて、解雇しやすい非正規社員を採用した結果です。非正規から正規になる道は厳しく、女性と若い男性の貧困化が進んでいます。年収700万円以上の男性は5人に1人いるのに、女性は33人に1人しかいません。

一方、正規社員の男性は長時間労働と有給休暇が取れないなど過酷な労働で精神疾患にかかる人が増えています。女性は第1子の出産で3人に2人が仕事を辞めていきます。ワークとライフのアンバランスに男も女も悩んでいます。この現実を変えるには非正規労働者を減らすこと、同一価値労働同一賃金を常識にすることと共に、家計を支えるお金を夫婦二人で稼ぐのが当然、という社会にしなければなりません。

このような現実を踏まえて、これからの働き方、働き方について、竹信さんは、5つの提案をされました。

- 1 楽になるためには手間を掛けること。  
―「私の方が苦しい」と、苦しさを人と競争するのではなく、自分が幸福なこと、楽なことを競争する。
- 2 「自立」の意味を変えること。  
―一人で頑張ることと解釈していると自滅するだけ。「助けて」と言い合える人、助け合える人とのネットワークをつくるのが「自立」と考える。
- 3 家事の分散を図ること。  
―女性が働くには、家事を夫や子どもと分担することが必要。話し合っただけで家事をすることをメリットを理解させる。
- 4 ムカッとするのを言われた時、笑顔で言い返せるように、頭の中に「言い返し袋」を持つておくこと。  
―口に出せなくても言ったつもりになれる。
- 5 自分が棺桶の中に入ったときを想像して、やらないで後悔が残ると思うなら、やらない。

広報誌『ひらく』聞き取り調査から

## 3.11の東日本大震災をきっかけに自分の中で変わったことは?

74名からの回答の一部です。震災から5か月後の気持ちに立ち返ってみましょう。

**被災地**に気持ちを向ける、災害ボランティアをとおして若者の素晴らしさを再認識する。地域や自治会、更に政治へと関心が広がり、自分ができることは何かを思うようになった。

災害や震災、防災や報道などと**真剣に向き合い**意識するようになった。**人の役に立ちたい**と思うようになった。

当たり前になっていた生活や電気が**当たり前ではなく**、普通の生活が続けられる**幸せ**を感じるようになった。日常の生活をもっと楽しもうと感じるようになった。

**原発**の安全性や必要性、放射能に関心を寄せるようになった。新聞やニュースを真剣に見ている。

**家族・友人**のつながりを確認した。人を大切にすることが強くなった。家族と話し合い、連絡方法や帰宅方法の確認をした。**顔の見える**関係で人間関係を捉えるようになった。人との出合いやつながりを大切にしていきたいという気持ちが強くなった。互助が大切と再確認した。

人は**自然の中に生きる**生き物であることを再確認。自然の驚異に対し今以上に謙虚な心を持ちたい。暮らしを見直し質素な暮らしを心掛けたい。**防災や節電意識**を持ちたい。エコにも関心を持つようになった。体力を付ける。体の不具合を無くすよう努力したい。**自分の考えや意見を言う**ようになった。